



3D CAD例

緑地の基本設計、実施設計

保有する緑化技術と工法を組み合わせ、施工から維持管理までを考慮したトータルプランニングを行います。

緑地は、景観としての機能や環境面での機能を発揮させながら、「工場立地法※1」や「市町村緑化条例※2」の決まりを守する必要があります。それら緑地に関する法令のご相談から承ります。

- お客様のニーズに寄り添い、維持管理まで考慮した緑地の形状、植物の選択や配置をご提案。
- 平面図の作成、費用算出を行い、ご要望によっては3D CAD図の作成。
- 緑地の意匠を、実際に施工できるような仕様へと考案し、図面化・数量化。



毎木（まいぼく）調査

都市部の公園から森林まで、目的に沿った樹木の種類、大きさ、本数を調査・計測します。

樹木医などの造園・森林関係資格者により、現地での樹木本数・大きさ・樹種の調査を行います。

ご要望に応じて、現地樹木へのナンバリング、プロット図の作成を行います。

主な調査方法

- **全面調査**：対象地内すべての樹木を、計測基準を設けて調査。
基準例：針葉樹のみ、胸高直径8 cm以上の樹木 など
- **プロット調査**：標本地法、標準地法、ラインセクト法などで調査地点を抽出し調査。

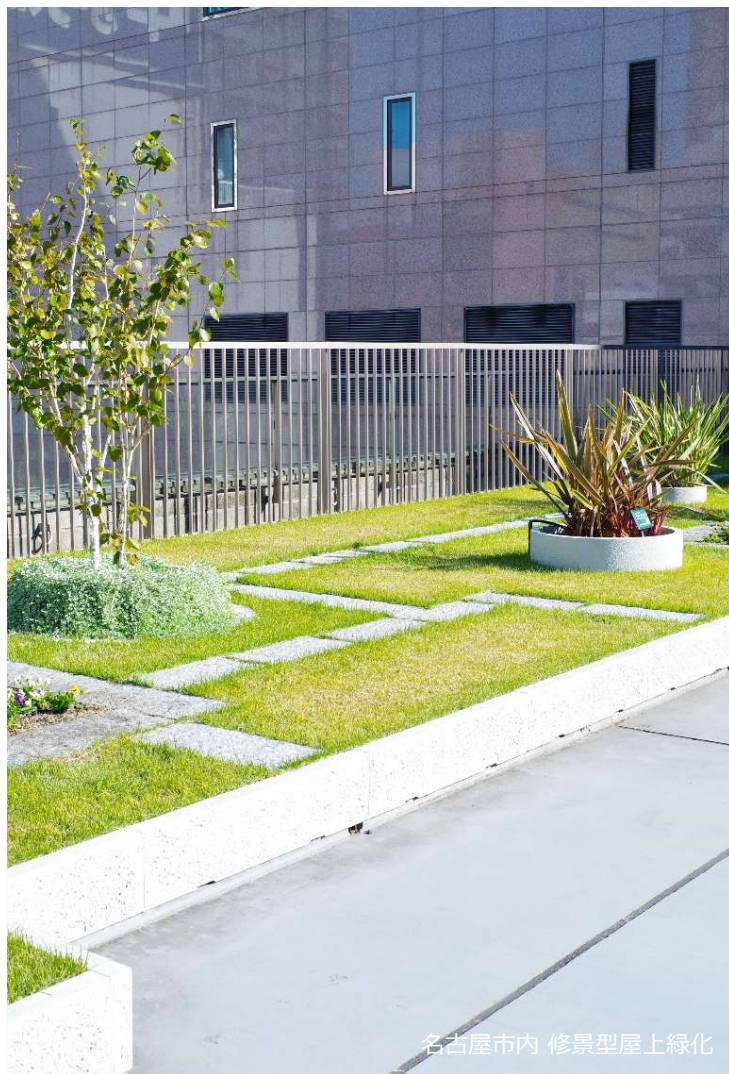


工場緑化

発電所工事などで得た豊富な経験を生かし、大規模工場や公共施設などでの緑地設置工事を、適切な費用と工期で実施します。

「工場立地法や緑化条例で定められた緑地」を確保する大面積の緑化工事を、エコロジー緑化技術を用いて効果的に形成します。

- 維持管理費まで含めたトータルで費用の低減が可能
- 強風地・急斜面地等の悪条件地においても緑化が可能
- 短期間で環境保全を目的とした大規模緑地を形成可能
- ✓ エコロジー緑化の効果
 - 維持管理低減 = 森を形成することで、除草などの管理を低減
 - 景観向上 = 工場と外部の間に緩衝林が形成され景観が向上
 - 環境保全機能 = 工場から出る騒音や粉塵の影響を緩和
 - 生物保全 = 動植物の生息場所を提供



名古屋市内 修景型屋上緑化

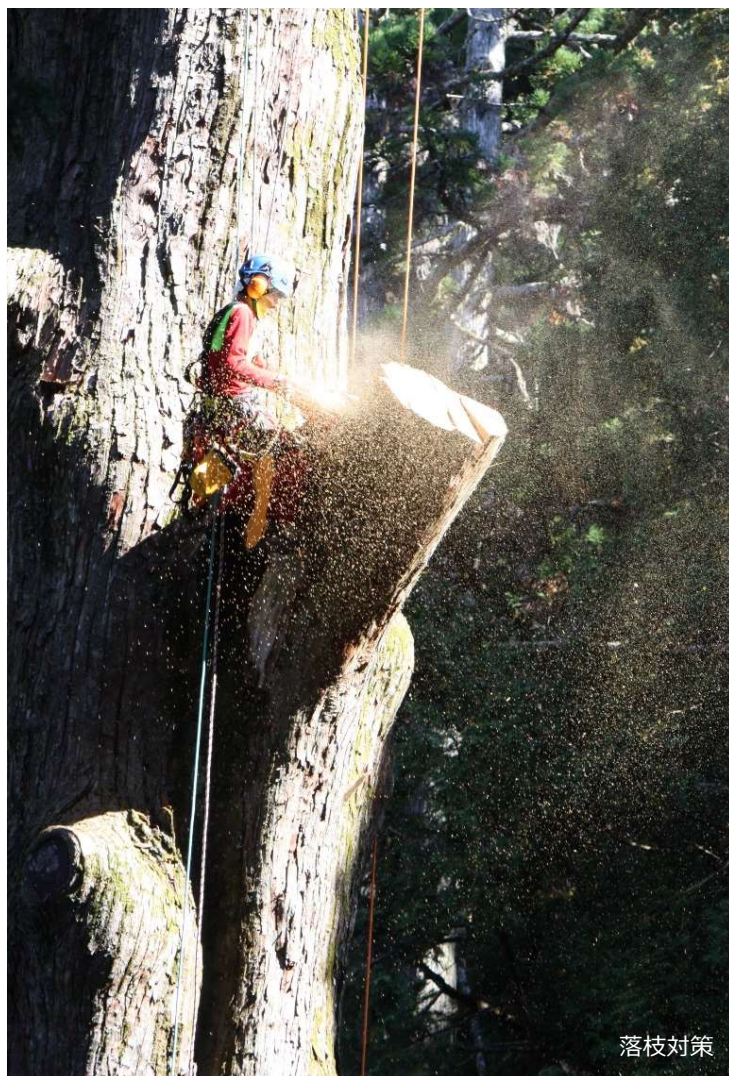
建物の特殊緑化

建物の特色や目的に応じて、屋上緑化・壁面緑化を中心に豊富な緑化プランから最適な方法をご提案します。

特殊緑化の種類

種 類		特 徴	仕 様
屋上緑化	修景型 (CFフレックスシステム)	中木類を含む多彩な植物に対応でき、庭園としての観賞価値が高い。	60Kg~/m ²
	コケ方式 (CFモスシステム)	「スナゴケ」を用い、メンテナンスコストが一番割安。非常に軽量で、ほとんどの既存折版屋根や陸屋根に施工可能。	10kg/m ² ~50kg/m ²
壁面緑化	(CFモザイクウォール)	カセットに植えた植物で、無機質な壁面を彩る。緑地率に加算される部分もある。	約70kg/m ²
駐車場緑化		輻射熱を軽減する。駐車スペースで緑地率を加算できる。	緑化率60% ~90%

特殊伐採、支障木伐採



ロープクライミング工法

機械が入れない場所や狭いスペースにおいて、欧米で発展している技術を用いた伐採を行います。

市街地に生えた大きな木の伐採・剪定には、一般的に高所作業車や仮設設備が必要ですが、場所によってはそれらを設置することが困難な場合もあります。それらを用いず、ロープワーク、クライミング技術、リギング技術によって安全・効率的に剪定や伐採を行う工法です。

※欧米では一般的に「アーボリカルチャー(Arboriculture)」として知られている工法です。

この工法が有効な場面

- 機械の入れない所に生えた木の剪定、支障枝伐採を行うとき
- 車両系機械の入れない傾斜地や山奥で、樹木の一部を切除するとき
- 周囲の構造物を壊さないで伐採したいとき
- 屋根に被った枝だけを切りたいとき など



森林業務

送電線工事や山林管理で培ったノウハウを生かし、山林での伐採とその後の復旧植栽や、森林に関する教育活動を、最新の知見で実施します。

当社は、1,000haを超える山林を50年以上管理した実績を有し、植栽・保育・伐採・搬出など山林で行う業務について、管理計画の立案や作業管理などを安全第一で行います。また、それらの技術を広めるための教育や、環境活動での講師も行っています。

主な業務内容

- 管理計画の立案、保全工事・山林撫育(ぶいく)・樹木間伐作業などについての管理監督
- 伐採業務、植栽業務の管理監督やそれらに関する教育
- 環境活動における講師



施工後約1年

雑草対策（新設、改修）

立地や敷地の条件に合わせて、植物の特徴を生かしながら工法や資材を組み合わせて、雑草の管理手間を軽減する緑地を提案・施工します。

日本は、降雨と気温に恵まれていることから小さな隙間でも雑草が生え、数年のうちに手に負えないほど繁茂します。そうなってしまうと、根まで抜き取る除草はもちろん、草刈りでも労力や費用が多大になることから、不具合が生じ、美観を損ないます。

当社では

- 他の植物が生えにくくなる植物の導入
- 防草シートとの併用

などの工法を用いて、「緑地」でありながら管理の手間を軽減する提案・施工を行います。



緑地維持管理

発電所等で得た経験を活かし、工場などの緑地管理について、最適な手法と費用のご提案を行います。

緑地の維持管理を適切に行うことで、以下のようなメリットがあります。適切な作業計画と工法を組み合わせることで緑地の機能を正しく発揮させ、企業価値を高めます。

- 機器類に植物が絡みつくとことや枝葉の干渉で生じる故障や停止を回避
- 植物の根株による路面の持ち上げ、排水異常の低減
- 点検・保守作業の障害を防止
- 道路の見通しを改善し、交通事故を減らす
- 枝葉の繁茂や雑草繁茂で通路の有効幅が狭くなることを防ぐ
- 害虫の発生、繁殖を減らす
- 近隣からの苦情を減らす
- 環境保全機能が向上することで騒音や粉塵などの公害を低下させる
- 従業員の労働環境とエンゲージメントが向上する



植物リース（室内用）

常に健全な植物によって、事務所などの空間に彩りと安らぎを付加します。

観葉植物を室内に配置すると、柔らかな空間間仕切りとしての利用や、インテリアとしての価値の他に、以下のような効果が期待できます。

- ストレスの軽減効果
- 視覚疲労を和らげる効果
- 室内の乾燥予防効果
- 室内反響音の低減効果
- 来訪者の親近感を高める効果

来訪者や従業員の満足度が高くなり、企業イメージの向上や、生産性・創造性の向上も期待できます。



雑草対策（維持管理）

管理の時期、機器、薬剤、資材を組み合わせ、雑草のお困りごとにお応えします。

毎年同じ時期に同じ管理を行っていると、そのサイクルを避けた雑草が繁茂し、処置が困難になっていきます。

生えている雑草の種類と特性を見極めて、的確な対処方法をご提案します。

雑草対策手法の例

- 雑草に合った除草剤の選択、使用時期の選択
- 成長抑制剤の使用
- 自動草刈り機の導入
- 水蒸気式除草機の使用
- 防草シートなどの物理対策と緑地の集約化